

大学における TOEFL iBT 対策授業についての実践報告 —スピーキング・セクションを意識して—

森下 美和

神戸学院大学経営学部 〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬 518

E-mail: morisita@ba.kobegakuin.ac.jp

概要 本稿では、派遣交換留学を希望する大学生が、留学に必要なスコアを取得するとともに、モチベーションを高めることができるような TOEFL iBT 対策授業について報告する。授業では、英語の 4 技能（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング）すべてを取り上げ、とりわけスピーキングを意識した。スピーキング・セクションについては、ピアレビューや教師の講評を挟んで同じ練習問題を 2 回行ったところ、1 回目と比較して 2 回目の発話総語数が有意に増加していた。授業後の TOEFL iBT のスコアは平均 10 点程度伸びており、アンケートにも肯定的な回答が見られた。本実践の結果から、TOEFL iBT に基づく授業は、派遣交換留学を希望する学生のみならず、あらゆる学生が 4 技能をバランス良く伸ばすことに役立つ可能性が示唆された。

A TOEFL iBT Prep Course Implementation —With the Speaking Section in Mind—

Miwa MORISHITA

Faculty of Business Administration, Kobe Gakuin University 518 Arise, Ikawadani-cho, Nishi-ku, Kobe
651-2180 Japan

Abstract This paper reports on an educational approach in a summer intensive course to improve TOEFL iBT scores of university students who wish to go on an exchange program, as well as help to motivate them. The course dealt with all four skills of English (i.e., reading, listening, speaking, and writing), with relative emphasis on speaking. The results of a task (Type 1) in the speaking section revealed that students produced significantly more words in the second recording than the first one with the help of peer review as well as the teacher's comments. TOEFL iBT scores *per se* also increased after the course by approximately 10 points on average. This improvement in performance, together with the positive responses from the questionnaire, shows that the course's aims seem to have been achieved. In summary, classes based on TOEFL iBT are useful not only for prospective exchange students but for any students who wish to improve the four skills of English in a balanced way.

1. はじめに

英語圏の大学・大学院へ留学するには、一定の TOEFL iBT スコアが必要である。TOEFL 試験は当初 PBT (paper-based testing; ペーパー版) であったが、日本では、2000 年に CBT (computer-based testing; コンピュータ版)、2006 年に iBT (Internet-based testing; インターネット版) が導入された。CBT ではライティングが導入され、iBT ではスピーキングを含む英語の 4 技能すべてを測定するようになったため、一般に英語の産出が苦手とされる日本人にとってはさらにハードルが高くなったと言われている。2012 年の TOEFL

iBT の日本人の平均スコア (70 点) は、世界平均 (80 点) のみならず、他のアジア諸国 (中国 77 点、韓国 84 点など) と比較しても、極めて低い (各セクション 30 点; 計 120 点満点) [4]。

このような状況下で、英語の習熟度が比較的高い学生であっても留学を希望する大学・大学院の入学基準スコアに到達できない者が少なくない。実際、ハーバード大学で学ぶ日本人留学生の数は、2000 年度から 2010 年度の 10 年間で 151 名から 101 名に減少しているが、一方で、中国人は 227 名から 463 名に、韓国人は 183 名から 314 名にそれぞれ増加している [2]。

そこで、学生が早期に必要なスコアを取得するための支援策として、夏期休暇を利用した TOEFL iBT 対策授業を実施した [1]。授業の主な目的は、英語圏の大学・大学院への派遣交換留学を希望する学生が、必要なスコアを取得するために、TOEFL iBT 用の自主学習の方法について学び、他の学生からの刺激を受けることによりモチベーションを高めることであった。また、少人数であることを活かし、通常の授業では取り上げにくいアウトプット・セクション、とりわけスピーキングを意識した授業を行った。

表 1 に、TOEFL iBT の概要を示す。

表1. TOEFL iBTの概要

セクション	問題・設問数	時間
Reading	3～5文 (各文につき、12～14の設問)	1問20分 (計60～100分)
Listening	1) 会話問題：2～3問 (各会話につき5つの設問) 2) 講義問題：4～6問 (各講義につき6つの設問) ※会話問題1問と講義問題2問で 1セット (計2～3セット)	1セット30分 (計60～90分)
Speaking	1) 独立問題：2問 2) 統合問題：4問	20分
Writing	1) 統合問題：1問 (150～225語) 2) 独立問題：1問 (300語)	20分 30分

一般に英語の産出が苦手とされる日本人の場合でも、各セクションの平均スコアに大きな開きはないが、その理由としては、スピーキングおよびライティング・セクションの大半は、リーディングやリスニングを含む統合問題 (integrated tasks) であり、4技能が相互に関連付けられているということが考えられる。したがって、TOEFL iBT のスコアを伸ばすためには、4技能をバランスよく伸ばすことが不可欠である。

次に、スピーキング・セクションの概要を示す (表 2)。

表2. スピーキング・セクションの概要

問題の種類	モード	問題内容	準備時間	解答時間
独立問題	Speaking	Type 1) 自分の経験や好みについて答える Type 2) 自分の経験や好みについて、二者択一で答える	15秒	45秒
統合問題	Reading/ Listening/ Speaking	Type 3) 大学生活：トピックに関連する内容のリーディングとリスニング (会話) の後、話者の意見をまとめる Type 4) 講義：トピックに関連する内容のリーディングとリスニング (講義) の後、要点をまとめる	30秒	60秒
	Listening/ Speaking	Type 5) 大学生活：問題と2つの解決策についての会話を聞き、自分の意見を述べる Type 6) 講義：講義を聞き、要点をまとめる	20秒	60秒

ある人がどの程度言語を上手く話すかについての我々の印象には、多くの要因が影響するため、スピーキング力の測定は難しい [5]。実際、スピーキングテストは、一般にインタビュー形式であることが多く (英検、IELTS など)、主観的になりがちである。一方、TOEFL iBT のスピーキング・セクションでは、受検者のすべての発話はコンピュータ (インターネット) 上で録音され、テスト終了後に 3～6 名の有資格評価者によって、以下の各項目について 0～4 のスコアがつけられる [3]。

- ・話し方 (Delivery)：流暢且つ明瞭であり、発音、速度、イントネーションなどが自然であるか。
- ・言語使用 (Language Use)：文法の基礎力があり、複雑な構文も使用しているか。また、適切な語彙を使用しているか。
- ・話の展開 (Topic Development)：話に一貫性があるか。論理の流れが分かりやすいか。

これらの項目を、1度きりのインタビュー・テストで、多くの場合は1名の面接官によって、その場で適切に評価することは難しいであろうと想像できる。TOEFL iBT の場合は、テスト終了後に複数の評価者が録音音声をチェックすることから、より信頼性の高い評価が期待できる。

英語学習における最終目標は、英語力そのものの向上ではあるが、「留学」という明確な目的がある TOEFL iBT の場合、必要なスコアの獲得のための方略についても身に付けておかなければならない。そのた

め、スピーキング・セクションに関しては、以下のよう
なアドバイスを与えた。

- ・ポーズやフィラーを避け、スピードを重視する。
- ・問題文のフレーズを利用し、発話潜時（発話開始
までの時間）をできるだけ短くする。例えば、Choose a
person from your childhood. State why that person was
significant to you. という問題であれば、解答は、The
person who was significant to me from my childhood is...
というフレーズで始める。
- ・言いたいことを無理に言おうとすると日本語から
の翻訳になってしまうので、英語のままで言いやすい
ことを選ぶ。
- ・難しいトピックやどちらでも良いという意見は、
まとめづらいので避ける。
- ・頻出トピックについて原稿を書き、L1 英語話者に
校正と録音をしてもらった上で、何度も練習すると、
自然に内容を暗記することができ、適切な発音やスピー
ードも身に付く。
- ・どんな問題の解答にも利用できそうな自分の意見
や具体例（経験）などをまとめておく。
- ・とっさに浮かばなかった表現や単語は、あとで必
ず調べて次の機会には使えるようにしておく。
- ・慣用表現の知識を増やす。

また、制限時間の終了と同時に録音を止めてしま
うと、ほとんど何も話せずに終わってしまう学生が少な
くないため、最初のうちは時間を気にせず話し切る練
習をさせた。制限時間内に話し終わらないのは、ほと
んどの場合、情報量が多いからではなく発話速度が遅
いことが原因であるが、何度も同じ内容について話す
うちに制限時間内で簡潔にまとめられるようになる。

2. 実践方法

2.1. 参加者

英語圏の大学・大学院への派遣交換留学を希望する
英語専攻の大学生・大学院生 12 名（2 クラス）が参加
した¹。授業は、少人数制とするため、同じ内容を 2
回に分けて行った。各クラスの定員は 10 名であったが、
他の集中講義や短期海外研修に参加する学生が多く、
最終的には前半 5 名、後半 7 名のクラスとなった。補
習であるため、特に評価はしないが、各学生が事前に
TOEFL iBT の形式を把握しておくことと、大学側がス
コアの伸びで授業の効果を確認することを目的に、受
講前後に各自 TOEFL iBT を受験してスコアを報告す
ることを義務付けた。ただし、時間と費用がかかる点
を考慮し、受講前については、TOEFL iBT を受験する
代わりに TOEFL iBT Complete Practice Test（TOEFL

iBT と同形式のオンライン練習問題）のスコアを報告
することも認めた。

2.2. 教材

リーディング／リスニング用には、「新 TOEFL テス
ト形式で学ぶ教養英語：リスニング&リーディング演
習」（松柏社）、スピーキング／ライティング用には、
Kaplan TOEFL iBT with CD-ROM 2008-2009 をそれぞれ
使用した。また、必要に応じてプリント教材を配布し
た。

2.3. 授業内容

4 日間で合計 24 時間（6 時間／日）の集中講義を、
異なる学生を対象に同じ内容で 2 回実施した。授業を
通して、TOEFL iBT に関する基礎知識と攻略法を身に
付けることを目的とし、各セクション（リーディング、
リスニング、スピーキング、ライティング）について、
自主学習への動機付けやアドバイスを行った。

以下の進行表に基づいて、授業を行った（表 3）。

表3. 授業進行表

回	時限	授業タイトル	授業内容
1日目	1	Orientation	TOEFL® iBTの概要説明等
	2	Listening (1)	ガイダンス&練習問題
	3	Reading (1)	〃
	4	Writing (1)	ガイダンス&課題提出
2日目	1	Listening (2)	練習問題
	2	Reading (2)	〃
	3	Speaking (1)	ガイダンス
	4	Speaking (2)	練習問題
3日目	1	Listening (3)	練習問題
	2	Reading (3)	〃
	3	Speaking (3)	〃
	4	Speaking (4)	〃
4日目	1	Listening (4)	〃
	2	Reading (4)	〃
	3	Writing (2)	課題講評
	4	Wrap Up	質疑応答&アンケート等

1 日 4 コマで全 16 コマ（オリエンテーションとラッ
プ・アップの各 1 コマを含む）とし、ライティングに
は 2 コマ、その他のセクションには各 4 コマを割り当
てた。以下に、各セクションの授業内容について概要
を説明する。

リーディング

テキストから抜粋した問題を、制限時間（約 20 分
間）を設けて一斉に読ませた後、段落毎に要約と設問
の解答をさせた。背景知識が必要な問題については、
ウィキペディアなどの情報を資料として配布した。

リスニング

テキストから抜粋した問題を、全体を通して1回聞かせた後、数段落毎に区切りながら2回目を聞かせた。2回目では、段落毎に要約と設問の解答をさせた。難易度の高い問題については、空欄を設けたワークシートを配布し、キーワードを聞き取りながら概要を掴む練習をさせた。

スピーキング

CALLシステム (CaLabo EX) を利用し、全6タイプのタスクにつき1問ずつ出題した(表2)。ムービーテレコ(図1)で、各問題の解答(音声)を一斉に録音後、音声ファイルを回収し、各学生の解答をクラス全体で聞きながら講評した。録音と講評は1問につき1~2回行った。また、各タイプの問題ごとに簡単なメモ用のフォーマット(Appendix)を配布し、必要があれば使用するよう指示した。

録音・回収・再生等については、以下のような手順で行った。

<教師側の操作>

- 1) CaLabo Ex の日本語バージョンを起動させ、メインタブからムービーテレコを選択する(学生の画面にも、学生用のムービーテレコが立ち上がる)。
- 2) Teaching タブを Self Learning タブに、MIC ボタンを PC ボタンに、それぞれ切り替える。
- 3) 問題の音声をヘッドセットから流すため、CALL システムの操作パネルのスピーカーボタンを OFF にし、メインタブの「聞かせる」ボタンを選択する。
- 4) 音声をヘッドセットから流し、終了したら録音開始の合図をする。
- 5) 全員が録音終了したことを確認後、各自デスクトップ上に保存するように指示する。
- 6) アプリタブの「ファイル提出」ボタンを選択し、「生徒に提出を許可する」ボタンをクリックする。
- 7) 「提出フォルダ」に全員分の音声ファイルが入っていることを確認後、1人1人の音声を再生し、クラス全員でチェックする。

<学生側の操作>

- 1) ヘッドセットで問題の音声を聞く。
- 2) 録音開始の合図で、ムービーテレコの画面下の右端にある録音ボタン(赤丸)をクリックし、録音を開始する。
- 3) 解答が終わったら、停止ボタン(■)をクリックし、録音を停止する。
- 4) 再生ボタン(右向き三角)をクリックし、自

分の録音音声を確認する。

5) 正しく録音できていれば、画面左下の右端にある保存ボタン(フロッピーの図)をクリックし、ファイル名を入れてデスクトップ上に保存する。

6) 保存した音声ファイルを、ドラック・アンド・ドロップで提出ボックスに入れ、提出ボタンをクリックする。

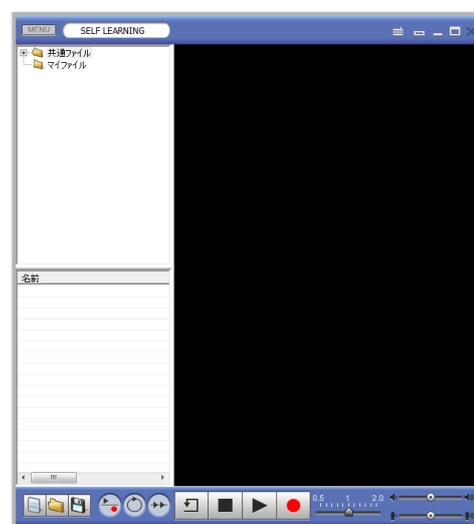
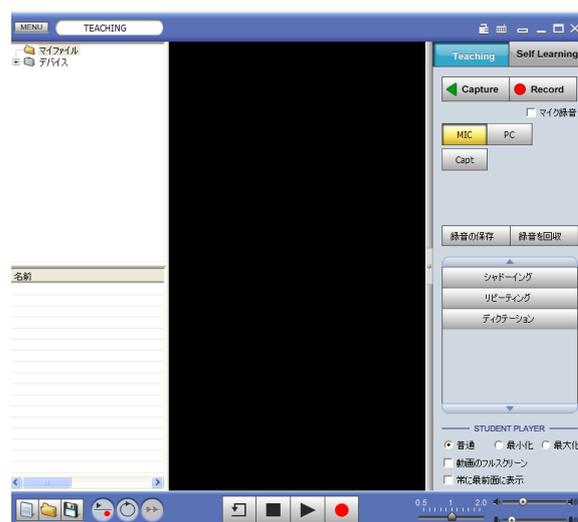


図1. ムービーテレコのイメージ
(上: 教師の画面, 下: 学生の画面)

ライティング

ライティングには、スピーキング同様、統合問題と独立問題があるが(表1)、本授業では、時間の都合により、通常のライティングの授業ではあまり扱えないと思われる統合問題のみを扱った。統合問題では、リーディング(約3分間)、リスニング(約2分間)の後、それらの情報に関する設問について、PC上で作文を書く(約20分間)。

初日の授業で、制限時間（約 20 分間）を設け、PC 上で作文（1 問；150～225 語程度）を書かせた。最終日の授業で、添削した全員分の作文のコピーを配布し、各作文について講評した後、再度同じテーマでその場で書かせた作文を中間モニターに映し、1 回目の作文と比較しながら再度講評した。

このように、スピーキングとライティングについては、教師による講評だけでなく、ピアレビューの要素も入れた。氏名は出さないようにしたものの、少人数制で個人が特定されやすかったため、本人が望まない場合には公開しないなどの配慮も行った。しかしながら、たとえ思ったような解答ができなかった場合でも、ピアレビューに抵抗を持たないことが、上達への一歩であるとも言えるだろう。

3. 結果と考察

3.1. 授業におけるスピーキングの伸び

スピーキングの観点から授業の効果を調べるため、学生の解答（音声）を録音・分析した。本稿では、以下の Type 1 の問題についての調査結果を報告する。

Choose a person from your childhood. State why that person was significant to you. Give details and examples to support your choice. (Kaplan TOEFL iBT with CD-ROM 2008-2009, p.297)

1 回目と講評後の 2 回目の解答（有効データ 11 名分）につき、Range32 (Nation, 2004) を用いて、発話総語数 (token) および異なり語数 (type) を比較した (表 4)。

表4. スピーキングテストの平均産出語数 (n=11)

	1回目	2回目
発話総語数 (token)	44.2	82.9
標準偏差	20.6	23.7
最大値	73	119
最小値	8	47
異なり語数 (type)	27.5	50.5
標準偏差	10.5	11.8
最大値	42	68
最小値	6	33

t 検定（両側）の結果、平均発話総語数は 44.2 語から 82.9 語に ($t(10) = 7.30, p < .001$)、平均異なり語数は 27.5 語から 50.5 語に ($t(10) = 8.28, p < .001$)、いずれも 1 回目と 2 回目の間で有意な伸びが見られた。ピアレビューを通して、1 回目の自分の解答に対するフィードバックおよびクラスメイトの解答を参考にした

ことにより、2 回目の産出語数が大幅に増えたと考えられる。

3.2. TOEFL iBT スコア

実際の TOEFL iBT と異なり、TOEFL iBT Complete Practice Test の場合、何度も受けることが可能で、好きなときに中断して休憩できるなど、かなり自由度が高い。そのため、実際のテストとそのまま比較することはできない。そこで、受講前後ともに TOEFL iBT を受験した学生 (6 名) のスコアのみを比較したところ、全員のスコアが向上しており、全体で平均 10.2 点の伸びが見られた (表 5)。

表5. 事前・事後テストの平均スコアと伸び (n=6)

セクション	事前テスト	事後テスト	伸び
リーディング	17.0	20.5	3.5
リスニング	15.2	18.2	3.0
スピーキング	16.0	18.0	2.0
ライティング	17.2	18.8	1.6
合計	65.3	75.5	10.2

また、どのセクションにもまんべんなく伸びが見られることから、本授業は 4 技能をバランス良く伸ばすことに効果的であったと言えるだろう。

3.3. アンケート

最終日にアンケートを行い、各セクションの授業内容について、7 件法 (1=非常に良くなかった, 4=どちらとも言えない, 7=非常に良かった) で満足度を評価してもらったところ、すべてのセクションにおいて、ネガティブな感想 (1~3) は皆無であった (表 6)。満足度の平均は、スピーキング (6.7) が最も高く、リーディング (6.2)、リスニング (6.1)、ライティング (5.8) と続いた。

表6. 各セクションの授業内容に対する満足度 (n=12)

	1	2	3	4	5	6	7	平均
リーディング	0	0	0	0	2	6	4	6.2
リスニング	0	0	0	0	2	7	3	6.1
スピーキング	0	0	0	0	0	4	8	6.7
ライティング	0	0	0	1	3	5	3	5.8

注：1=非常に良くなかった, 4=どちらとも言えない, 7=非常に良かった。

また、各セクションについての感想（良かった点と改善点）を自由に記述してもらった。リーディングとリスニングの良かった点としては、「段落毎に要約してみることで自分の理解度を確認できた」、「さまざまな問題を解くことで背景知識が身に付いた」など、TOEFL iBT に特化した内容に満足していると思われる

感想が目立った。改善点としては、どちらも「実際の問題より少し易しかった」、リーディングでは「PC上で読むのとは少し違う感じがした」、リスニングでは「スピーキングのようにヘッドセットで音声を聞いたかった」という感想があり、リーディングおよびリスニング・セクションについても、できるだけ本番に近い形での授業を望んでいることが分かった。

スピーキングとライティングの良かった点としては、「自分の解答を客観的に分析できた」、「他の学生の解答が参考になった」、「コメントやアドバイスの後に同じ問題をやり直せたことで自信がついた」などの感想があり、ピアレビューに対する満足度が高かったと言えるだろう。スピーキングでは、「本番さながらにヘッドセットが使えた点が良かった」という声が多く、「自分の声を録音して客観的に聞くことで、発音、スピード、内容を見直す良い機会になった。それを評価してもらう機会は貴重だった」などのような肯定的な意見がほとんどであった。改善点としては、多くの学生が「(リーディングやリスニングに比べて)問題数が少なかった」ことを指摘している。スピーキングおよびライティング・セクションの統合問題にも含まれていることから、リーディングとリスニングには、結果的にアウトプット・セクションと同じかそれ以上の時間を取った。そのため、アウトプット指導を重点的に行ってほしいと希望する学生にとっては、少し物足りない面があったかもしれない。しかしながら、全体としては、リーディングとリスニングについても、TOEFL iBT の特徴を踏まえた授業内容は役に立ったようであった。

4. まとめと今後の課題

授業内で行ったスピーキングにおける産出語数の伸び、TOEFL iBT スコアの伸び、およびアンケート結果から、本授業の目的は概ね達成できたと考えられる。

スピーキング・セクションの Task 1 の 1 回目と 2 回目では、発話総語数と異なり語数に有意な伸びが見られたが、2 回連続で解答したことによる繰り返しの効果か、あるいは教師による講評やピアレビュー（今回はクラスメイトの解答をチェックするのみで、クラスメイトによってチェックされることはなかったが）の効果によるものかは分からない。また、今回は、1 回目と 2 回目の産出語数の違いのみを見たが、発話内容についてもさらに詳しく調べる必要がある。ただし、少なくとも同じ問題を使って何度も練習すること、可能であればピアレビューを行うことなどは効果的であるだろうと予測できる。一般に、市販のテキスト等には模範解答しか載っていないことが多いため、本授業で行ったような方法でクラスメイトの解答をチェック

することは、大いに参考になるだろう。

また、受講前後の TOEFL iBT スコアを比較した結果、どのセクションもまんべんなく伸びていたが、リーディングとリスニングのときにはアウトプット、スピーキングとライティングのときにはインプットも意識して授業を行ったことが、4 技能をバランス良く伸ばすことに効果的であったと考えられる。

単位取得を目的としない集中講義（補習）は、少人数制の TOEFL iBT 対策向きであるとも言えるが、「正規授業として行ってほしい」という声も多く上がった。大学では CALL 教室の設備を活かし、実際の試験に近い環境で授業を行うことが可能であるため、TOEFL iBT 対策は、通常の授業での指導にもふさわしいのではないかと思われる。大学で資格試験対策授業を行うことに対しては批判もあるが、留学というはっきりとした目的がある点で、TOEFL iBT は他の資格試験とは大きく異なる。また、必ずしも TOEFL iBT 対策というタイトルの授業でなくても、常に 4 技能の指導を心がけることは、結果的に、留学希望者を含め、あらゆる学生が 4 技能をバランス良く伸ばすことに役立つと思われる。

一般的に低いとされる日本人の英語力の底上げは重要であるが、中・長期的な留学を希望する習熟度が比較的高い学生の英語力をさらに引き上げることによって、国際競争力を高めることも忘れてはならないだろう。特に、そのような学生の場合、言語理解に比べて言語産出が苦手である傾向が見られるため、スピーキングやライティングの能力を伸ばすためには、本授業で行ったようなアウトプット練習を意識的に行う必要があるだろう。

注

1 授業内で得られたデータを研究目的に使用することについては、すべての学生の承諾を得ている。

文 献

- [1] 森下美和. (2012). 「派遣交換留学に必要なスコア取得のための TOEFL iBT 対策授業」『高等教育における英語授業の研究：学習者の自律性を高めるリメディアル教育』（JACET 第 2 次授業学研究特別委員会編）
- [2] 読売新聞. (2010 年 3 月 10 日). 「ハーバード大学学長、日本人留学生の奮起促す」
- [3] Educational Testing Service. (2008). TOEFL iBT tips: How to prepare for the TOEFL iBT. Retrieved from http://www.ets.org/Media/Tests/TOEFL/pdf/TOEFL_Tips.pdf
- [4] Educational Testing Service. (2013). Test and score data summary for TOEFL iBT tests and TOEFL PBT tests. Retrieved from http://www.ets.org/s/toefl/pdf/94227_unlweb.pdf

[5] Luoma, S. (2004). *Assessing speaking*. Cambridge: Cambridge University Press.

Appendix : スピーキング用フォーマット例

独立問題 (Type 1)

Type 1: Independent Speaking

1) Your opinion / Your choice about the topic

2) Reasons & Example(s)

1.

2.

3.

統合問題 (Type 3)

Type 3: Integrated Speaking

1) Issue (Plan)

2) His / Her opinion

3) Reasons

1.

2.

3.